2020年５月25日

各　位

上場会社名　株　式　会　社　博　展
（コード番号：2173　東証ＪＡＳＤＡＱ）
本社所在地　東京都中央区築地一丁目13番14号
代　表　者　代表取締役社長　田口徳久
問合せ先　取締役経営本部長　田中雅樹
電話番号　０３（６２７８）００１０

中期経営計画の発表の延期等について

当社グループは、2020年５月25日に予定しておりました中期経営計画（2021年３月期から2023年３月期）の公表を延期することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1.　延期の理由

本資料開示時点での当社グループの事業の状況は、企業のショールーム等の商環境を中心に、2019年３月期末と比較して 2020 年３月期末の受注残高が上回りましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う展示会･イベント等の開催の延期や中止の影響により、展示会出展、イベントプロモーション、商談会・プライベートショーにおいて受注活動に遅れが生じております。また、新型コロナウイルスの影響が収束する時期や、収束後の企業活動や事業環境の変化に伴うマーケティング活動に対する投資への影響など、当社グループの中期経営計画を合理的に算定するための要素がいずれも不透明な状況であります。そのため、中期経営計画について公表を延期することといたしました。

なお、上記理由から本日開示をしております2020年３月期 決算短信におきましても、2021年３月期の業績予想は未定といたしました。

2.　今後の予定

連結業績予想と中期経営計画の合理的な算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

株主、投資家をはじめ、関係者の皆さまにはご心配をお掛けいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【添付資料】

（参考資料）前事業年度の総括・事業の進捗状況及び今後の見通し

（参考資料）前事業年度の総括・事業の進捗状況及び今後の見通し

（１）前事業年度の総括

（単位：百万円）

	2019年３月期	2020年３月期 （前事業年度）	増減額	増減率 （％）
売上高	12,873	12,921	47	0.4
売上総利益 （％）	3,220 (25.0)	3,638 (28.2)	417	13.0
営業利益 （％）	523 (4.1)	645 (5.0)	122	23.4
経常利益 （％）	513 (4.0)	649 (5.0)	136	26.6
親会社株主に帰属する当期純利益 （％）	77 (0.6)	409 (3.2)	332	431.4

当社グループの主要領域である広告・イベント業界においては、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」（2020年４月15日発表）によると、広告業のうち「SP・PR・催事企画」における売上高は、2019年３月から2020年２月の累計実績が前年同期間比96.4%と減少傾向にあります。また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う展示会・イベント開催の自粛要請や延期が発生し、今後も様々な影響が顕在化することが懸念され、将来の不透明感が増しております。このような環境の中、当社グループは、中期ビジョン「ココロ揺さぶる瞬間（とき）を創り、世の中を次へ動かす」の実現に取り組んでおります。

前事業年度におきましては、当社の強みである体験価値を創造するクリエイティブ力や企画・デザイン・製作・運営といった全サービスをワンストップで提供できる組織体制等を活かし、マーケットやクライアントのニーズに柔軟に対応することで、更なる事業拡大を目指してまいりました。顧客接点の強化と取引深耕により顧客１社あたりの取引金額の向上に取り組むと共に、業務オペレーションの効率化や原価コントロールを通じて収益性を高めてまいりました。また、将来の事業成長に向けた経営基盤の構築を推進すべく、人的リソース・プロモーション活動・IT活用等、以下の重点分野にフォーカスした投資を行いました。

① Experience Marketing市場をリードするコアコンピタンスの確立
② 業務プロセス改善と戦略的IT活用によるオペレーション改革の推進
③ Experience Marketingを実現する高度な人材の獲得・育成

この結果、前連結会計年度における売上高は、129億21百万円となりました。

（単位：百万円）

	2019年３月期	2020年３月期 （前事業年度）	増減額	増減率 （%）
展示会出展	3,643	3,558	△85	△2.4
イベントプロモーション	3,299	2,910	△388	△11.8
商談会・プライベートショー	2,875	2,863	△12	△0.4
カンファレンス・セミナー	662	690	28	4.2
商環境	1,207	1,705	498	41.3
ﾃﾞｼﾞﾀﾙ・ｺﾝﾃﾝﾂ&ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ	1,051	1,104	53	5.1
その他	132	87	△45	△34.0
売上高合計	12,873	12,921	47	0.4

各商材カテゴリー別の売上高の状況につきましては、大規模公共施設の内装工事や企業ショールームを請け負った商環境が大幅に伸長したこと、年間を通じて高採算案件の受注を重視した営業活動を推進してきたこと、ITグループ会社が業績を順調に伸長したことにより、2019年３月期と同等水準の売上高を確保することができました。新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、2020年２月中旬以降に開催予定であった展示会・イベント等の中止や延期が発生しましたが機動的に対応した結果、前事業年度における影響は軽微でありました。

利益面につきましては、各プロジェクトにおいて採算性を重視した業務オペレーションの実行や原価コントロールの徹底等に努めた結果、人材採用、教育研修の強化や、インバウンド受注にも繋がるブランディング活動など当期の重点投資に係る費用を吸収して、営業利益６億45百万円、経常利益６億49百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は４億９百万円となりました。

（２）事業の進捗状況及び今後の見通し

当社グループは、展示会やイベントの企画・運営などのマーケティング支援を行う博展を中心に、Web サイト構築やアプリケーションの制作・配信・管理プラットフォームや AI・コグニティブ等、最先端のデジタル・テクノロジーを提供するグループ会社にて構成されています。

この度の新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、展示会・イベント開催の自粛の影響が現れており、今後も様々な影響が顕在化することが懸念され、将来の不透明感が増しております。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の延期に伴う東京ビッグサイトの一部使用制限の延長による大型展示会開催への影響や、企業の広告宣伝費の抑制継続が予想されるなど、厳しい市場環境が続くものと想定されます。

その一方で、企業のマーケティング活動や人々のコミュニケーションの在り方に大きな変化が生まれようとしており、オンライン上でのプロモーションやブランディング活動への需要が高まっています。今後はグループシナジーをより活かし、リアルとデジタルの垣根を超えた「価値ある体験」を再設計し、新たな生活様式に適応した統合型のコミュニケーションデザインを提供すべく、サービスを進化させてまいります。

このような方針のもと、当社グループの安定した経営基盤を構築すべく、以下の課題に注力し取り組んでまいります。

A)　リアルとデジタルのハイブリッド型のコミュニケーションデザインの確立

近年、顧客より経験や体験による価値創造によるサービスやブランドの認知度や好感度の向上を期待する声が増えてきております。また、新型コロナウイルスをきっかけに、人々の働き方やコミュニケーションの在り方に大きな変動が起きようとしています。こうした中、当社グループは、リアルとデジタルの垣根を超えた「価値ある体験」を再設計し、新たな生活様式に適応した統合型のコミュニケーションデザインの提供を通じて、顧客の永続的なマーケティング・パートナーとしてのポジションを確立してまいります。

具体的な活動としては、オンライン上でのイベントプロモーションサービスの開発、自社ライブ配信スタジオの開設、体験価値に関連する各種調査・研究等を実施する Experience Marketing Lab の設立、顧客のエンドユーザーの体験活動の設計と最適なソリューション提供、及び感染症予防観点でのリアルイベント開催の規格の策定・実施運営等を推進してまいります。

B)　業務プロセス改善と戦略的 IT 活用による新たな働き方の推進

当社のビジネスは、複雑且つ多様な業務オペレーションを数多くの人々が関与し、顧客の要望に柔軟に対応しながら進めており、効率的なオペレーションが課題となっております。

時間と場所に捉われない新たな働き方の機運が社会的に高まっており、顧客や取引先と連携してリモートワークによる業務遂行を引き続き推進してまいります。また、業務プロセスを見直し最適なオペレーションに組み直すと共に、戦略的 IT 活用により労働生産性を向上させてまいります。

C)　コスト管理の徹底と財務基盤の強化

現在の状況が長期化した場合に備え、販売費及び一般管理費など固定費の見直しを一段と行うとともに、各プロジェクトのコスト管理の徹底を行ってまいります。

また、財務面では複数の金融機関との間で手元流動性を高める調達を交渉中であり、これまで拡大してきた当座貸越契約枠と併せ、当面の資金繰りについては十分に担保されております。また、運転資本の改善にも取り組んでまいります。

（３）前回発表予想の達成状況（連結）等

（単位：百万円）

	2020 年３月期		2021 年３月期（予想）	2022 年３月期（目標）	2023 年３月期（目標）
	前回発表予想（2020 年２月７日）	実績			
売上高	13,500	12,921	未定	未定	未定
営業利益	600	645	未定	未定	未定
（％）	(4.4)	(5.0)			

連結業績予想と中期経営計画の合理的な算定が可能となった時点で速やかに公表いたします。

以　上